

石神中学校だより 4号

発行日：令和元年 6月13日

2019重点目標＜目標を持ち、共に高め合い、夢の実現のためにやり抜く生徒＞ 文責：校長 佐藤恭司

中体連総合大会（相双地区予選）結果

6月5日～6日、11日に中体連総合大会相双地区予選会が各会場にて行われました。本校生徒の参加態度、マナーなど立派だったという報告を受けています。部活動を通して心身の成長の様子が見られてきました。主な結果・記録は次の通りです。県大会は7月22日～24日に県内各会場別に行われます。さらなる活躍を期待しています。応援よろしくお願いします。



団体戦に臨む女子卓球部



対 尚英中戦 野球部

卓球部男子団体 3位
卓球部女子団体 3位
ダブルス 3位
三島美幸、門馬みなみ 県大会出場
シングルス 5位 岡 玲奈 県大会出場
ソフトテニス個人 5位
佐藤夏恋、菊地陽奈 県大会出場
野球部 以下 惜敗
サッカー部
バレーボール部男子
バレーボール部女子
バスケットボール男子
バスケットボール女子
剣道部女子個人
ソフトテニス部男子団体
ソフトテニス部男子個人
ソフトテニス部女子団体

＜陸上競技県大会出場予定選手＞

| | | |
|----------|-------|----|
| 共通 110mH | 坂本 健太 | 3年 |
| 1年 1500m | 石川 乃亜 | 1年 |
| 混合競技 | 三村 和貴 | 3年 |
| 共通 200m | 池田 颯人 | 3年 |
| 共通 100mH | 高野美梨弥 | 2年 |
| 1年 1500m | 日下 稜空 | 1年 |
| 3年 100m | 高田 愛未 | 3年 |
| 共通走り高跳び | 高橋 衣織 | 3年 |



※ 他の種目で県大会に出場する競技者が出た場合は4位以下が繰り上げになります。陸上競技県大会は7月3日福島市とうほう・みんなのスタジアム（県営あづま陸上競技場）で開催されます。

応援する吹奏楽部員と保護者

子どもたちに伝えたい名言とことわざ③

子どもたちが考え、生活に生かす名言やことわざを紹介していききたいと思います。ご家庭でも話題にしていいただければと思います。

まかぬ たねは はえぬ
～蒔かぬ種は生えぬ～

このことわざは、何ごとにも始めてみないと何も変わらないことを教えてくれています。何かを得ようとするなら、努力が必要です。外国のことわざで「収穫は種を蒔いた後に来る」というものがあります。野菜でも花でも木でも、種を蒔くから芽が出てきます。反対に何かをすれば何かが生まれるという意味でもあります。何もせずに良い結果を期待しても何も起こりません。始めてみるから結果が生まれるのです。まずは始めてみましょう。

教育実習終了しました

5月13日から3週間、須藤和輝さん（帝京大学4年生）が教育実習（保健体育科）を行いました。須藤さんは本校の卒業生です。ここ数年多くの卒業生が、本校で教育実習を行うようになって来ました。自分たちが学んだ校舎が新しくなり、当時の面影が薄れていく中で教育実習ができたこと、かけがえのない3週間になったということです。私たち教職員は実習生が教員採用試験を得て本採用となり、母校に勤務できる日がくることを期待しています。



2年2組で道徳の授業を行う実習生

最近の教育用語について①

近年、社会及び教育環境の変化に伴い、様々な新しい教育用語が出てきております。そこで、学校だよりの中で、出来るだけわかりやすく紹介していきしたいと思います。

デジタル教科書

文部科学省の検定を経た教科書の内容をデジタル化したソフト。

「指導者用」と「学習者用」の2種類あります。「指導者用」は、電子黒板に映し出し、教師が指導用に使います。「学習者用」は、

タブレットPCなど電子端末に表示して使い、児童生徒が1人1台持ちます。政府は2020年までに全小中学校生への導入を検討しているようです。

～ねがい④～ ＜“向き、不向き”について＞

「自分には、これは向いていない」という。だったら何が向いているのか？それがわからない。そういうタイプの生徒がよくいます。“向き、不向き”ということに関して、ある学者は「若者は自分の適性や向き、不向きに神経質過ぎるのではないか」と言います。向き、不向きが若い頃からがっちり決まっている人は、ごく特殊な例であり、たいていの人はどんなものでも向く、心と体のやわらかさを持っているそうです。「習ったり、試したりしているうちにできるようになる“やわらかさ”もまた人のものであり、人の特質であった。そのような適応力の豊かさこそが、人類を発展させたものである」（動物学者：畑正憲氏）。自分が長男であるがために、家業を継がなければならない人がいます。向き、不向きなど考える余裕はなく、早く一人前になろうと努力します。長年、熱心に取り組んでいるうちにその仕事が自分の“向き”に変わるのかも知れません。若いうちは、向き、不向きなどを考える前に、自分の適応力を信じて、まずは挑戦していくことが必要なのでしょう。多くの経験から学び、習得していくうちに選択できる力が備わるものと考えます。これから進路選択で悩む時期です。あせらずじっくりと考えたいですね。

